

(1)

第 170 号

発行日：2013年11月1日
 発行人：神 立 秀 明
 〒950-2172 新潟市西区内野上新町11810番地3
 TEL 代表(025)264-5000
 FAX(025)261-4430
 在宅ケアセンターゆうばえ内



夕映えの会

住民の声

お酒は文化

お酒文化の発信基地として



リカーステーション
 やしち酒店
 専務取締役
 鈴木 興 春

明治時代に店を興し創業百年以上が経ちました。その間、戦争や町村合併、内野大火、新潟地震など様々なことがありました。私どもは内野四つ角で、この町をずっと見てまいりました。

この町が古くから栄えてきたのは、まぎれもなく新川の開削など大土木工事が行われたことでしょう。人が集まる所で、料理屋さん栄え、花柳界が添い、呉服屋(反物屋)、髪結い、下駄屋、菓子屋など繁盛をきわめました。今の内野町は、そうした過去の蓄積の上にあると思います。各地で今、盛んに「町おこし」の取組みがすすめられています。内野でも商工会が中心となって「古町のようににはなりたくない」と頑張っています。

私は町おこしを考える時、商業施設のありかたについて一言があります。

それは大規模店の進出を野放しにしておいての町おこしは大変難しいということですが、それは末期のがん患者にただ頑張れと言うに等しい。町なかの商店と大規模店では資金力に圧倒的な差があります。資本の論理でいけば私たちのような中小・零細な店が勝てるわけはありません。しかし、町の皆さんの利便性や暮らし易さ、あるいは街並み・景観の維持ひいては観光など数字では表せないものがあると思うのです。

町おこしは簡単ではありません。しかし私も関係する商工会では瀕死の状況ではあるがお手上げではない。打つ手を間違わなければ再生は可能とみています。それは元氣な二代さんが現れ始めているからなのです。私どものお店もそうですが、そこに将来の光明を見出しています。

かつて新潟大学で教鞭をとられた経済学者の宇澤弘文先生には、「お酒は日本食という食文化に根ざした文化そのもの。だからお酒を届けるあなた方は『文化の伝播者』なんですよ」とおっしゃっていただきました。内野と新潟の地酒を、そしてみなさまの満足を届けながら、引き続き、文化の発信者のかたわれを任じさせていただけたいと思います。

夕映えの会の皆さんとは、兄の代

から親しくさせていただいてきました。夕映えの会が近年、健やかに安心して暮らし続けられるまちづくりを提案し活動を行っていることに対し心強く思っています。

(内野町在住)

2013 11 ミニイベントのお知らせ

- 9日(土) いっぺこと歌おいね 川崎 和幸様
- 13日(水) 民謡 「梅芳会」の皆様
- 15日(金) 踊りと三味線 「すみれの会」の皆様
- 18日(月) 踊り 「赤いぐみ」の皆様
- 19日(火) お抹茶を頂く会 佐々木紀美様他
- 21日(木) 語り部 「あねさの会」朝妻サワ様他
- 22日(金) マジックショー 佐々木邦次様
- 27日(水) 歌と踊り 「げんき会」の皆様

とき

午後2時30分より
 ※お抹茶を頂く会は
 午後3時15分より

ところ

ケアセンター「ゆうばえ」
 デイサービスセンター
 地域の皆さんのご来所をお待ちしています。
 一緒に楽しみましょう。

新潟市西区社協歳末助け合い事業

第4回

クリスマス元気大会 (ご案内)

1年の締めくくりの時期となりました。この1年元気で過ごせたことに感謝し、そして元気で来年を迎えようと、今年もクリスマス元気大会を実施いたします。ふるついでに参加ください。

と き 12月7日 午後2時(土曜日)

と ころ 西コミセン2階大ホール

参加費 無料

プログラム

○演奏

西内野吹奏楽団 納谷伸司様

○コーラス

わかば会 宮内幽香子様

○サンタさんのプレゼント会

○健康チェック



平成25年度

夕映えの会 日帰り研修旅行

10月14日



施設玄関前で記念撮影

秋晴れの好天に恵まれ19名で村上市の小規模多機能型居宅介護施設「よりあい」を見学してきました。お訪ねした時間、施設では利用者さんの入浴などがあり、参加者は2グループに分かれ、施設長の中西さんから説明を受けました。小規模多機能施設は、在宅で暮らす高齢者を支援する施設。利用者25名の定員で運営されています。施設運営の問題点について責任者の中西さんは「利用者さんの介



説明する中西さん

護度によって施設に入る報酬が違ってきます。在宅でおられる方、どなたも支援したいが、介護度と施設運営との間で中々厳しいものがあります」と語っていました。介護保険制度の矛盾がこんなところにも現れているようです。この後、瀬波温泉は夕映えの宿・汐美荘で昼食交流会となりました。来年はもっとたくさんの方の会員さんとお出掛けしたいと思います。

高橋 実 記

第9回ゆうばえ祭り

暑い夏を避けて、今回から10月に開催されたゆうばえ祭り。西内野小学校3B体操や内野中学校太鼓演奏など、地元の子ども達が参加するお祭りとなりました。あちらこちらで子ども達の歓声が聞こえる楽しい祭りでした。

オープニング
内野中学校生徒による太鼓演奏



西内野小学校生徒「3B体操」



職員有志「よさこいソーラン」



スーパーボールすくい



梅芳会の皆様「民謡」

「健やかシンニク」していきます!

第6回 今もバドミントン継続中

内野山手 佐藤 俊夫

高校から始めたバドミントン、62年目の今もまだやっています。

昭和39年、新潟国体が行われました。当時、私は内野小学校に勤めていましたので、内野駅から会場地へ向かいました。その時、6年生全員がグラウンドで見送ってくれたのを思い出します。

国体では、私たち教員男子が優勝しました。

その後、私は全国大会の個人戦で優勝するという目標をもっていた。いつも大会に臨みました。

全日本教職員大会には26歳の時から35回、全日本シニア大会には60歳から13回出場しました。

念願が叶って漸く優勝できたのは、教職員大会60歳以上(5歳刻みの年代別)のシングルスでした。国体から数えて33年が過ぎていました。

それ以後は8回の優勝を含む16年連続3位以上の入賞を果たし、去年は全日本シニア75歳以上でシングル・ダブルスの2冠を達成しました。正に「継続は

力なり。さらに継続して宝なり」を実感しました。

ところで、5年前からまた、内野小学校の学校開放でバドミントンをやっています。

一回りどころか三回りも若い人たちの仲間に入れてもらい、ダブルスのゲームを楽しんでいます。会心のプレーに「ヤッター!」と大声で叫んだり、絶好のチャンス逃して悔しがったり……、和気藹々のうちに時間が過ぎていきます。

60歳からのマラソンもやっているせい、まだまだ元気です。バドミントンを続けていけそうです。

芦岡さんの

「飯じまめー」

ゆうばえの里
管理栄養士
芦岡 実可子

「レンコンと豚の黒酢炒め」

気温も下がり、秋らしい気候になってきました。夏の疲れが出てくる頃と思います。

疲労回復効果のある黒酢とレンコンで、体の中から元気になりましょう。

〈材料〉(2人分)

・豚薄切り肉 150g

(下味に塩・胡椒少々)

・レンコン 5cm

・人参 3分の1本

・かいわれ大根 2分の1パック

・醤油 大さじ1

・砂糖 大さじ3

・黒酢 大さじ2

・水 大さじ2

・サラダ油 大さじ2

・粗引き黒胡椒 少々

〈作り方〉

① 豚肉は食べやすく切って塩胡椒をす

る。

② レンコンは縦に細切りし、人参は3cmの短冊に、カイワレは半分に切る。

③ Aは混ぜておく。

④ フライパンに油を熱し、豚肉→レンコン→人参の順に炒める。

⑤ ④にAを加えて煮からめる。火が通ったら黒胡椒をかり、カイワレをのせる。

※ Aを加えたら、とろみがつくまで煮からめると、酢の酸味が飛び、まろやかな味に仕上がります。

ゆうばえ通信

投稿俳句

『孫来る日』

背すじ伸ばして

今朝の秋』

秋日和にて

溝口 旬峰

海を見て浜ぼうふうが白く咲く
海辺ののどかさ今はなく

夏の朝わが足に揺られ道行けば
つゆ草ひっそり風に揺れて

細いつる天へ天へと休みなく
重い実を下げ伸びて行くなり



黒アゲハ頭さしこみ蜜を吸う
与えて花は笑顔たやさず

コスモスに紋白蝶が遊ぶ時
夏の扉が静かに閉じる

一瞬の輝く時を逃さずに
シャッター切りて感動伝える

南 繁栄

法人事務局より

来春、ゆうえい会では現在の施設の向いに新たに小規模多機能施設を開設致します。

地域の皆様には順次説明会を開催させていただきますので、どうぞ気軽にお越しください。また、お問い合わせは下記までどうぞ。

法人本部事務局 渡辺

NPO夕映えの会の生活支援活動をご利用下さい!!

どんなお手伝いでも1時間1,000円です。

(介護保険は適用されません)

詳しくは090-1431-7996(小川)まで

連絡先一覧

夕映えの会
お弁当配食については
★配食事業部へ
090-3476-2875



生活支援については
★生活支援部へ
090-1431-7996
お気軽にご連絡ください。

生活支援、配食、運転
ボランティア募集

社会福祉法人ゆうえい会
在宅ケアセンターゆうばえ
(代)025-264-5000

ケアハウスゆうばえの里
025-264-5715

ショートステイゆうばえの里
025-264-5730

★介護のご相談はケアプランへ
025-264-5701

編集後記

9月の20周年記念事業に続き10月にはゆうばえ祭りと会員旅行など大きなイベントが続きました。会員の皆様とゆうえい会、さらには地域の皆さまのご協力で、ひと山を越えた感じがします。私たちの目標である、安心して住み続けられるまちづくりに向けて、腰を据えて議論を深める時期となりました。まちづくりは私たちがだけではもちろん限界があります。町内会・コミ協はじめ民生委員のみなさんとう力を合わせるか、カギはそこにありそうです。(M記)